

BB通信

12月vol.14



×



2015年も、残すところあとわずかとなりました。皆さんにとって、2015年はどんな年でしたか？堺ビッグボーイズでは、小学部の設立、南花台フューチャーズの公式戦出場など、様々なチャレンジがあった年でした。まだまだチームとしてやりたいこと、できることはたくさんあります。2016年も停滞することなく、新しいことにチャレンジする年にしていきたいと思えます。

一年間、ご支援とご協力をいただきありがとうございました。来年もよろしくお願ひいたします！

「『聞く』と『聴く』の違い」

コーチ 土井 幹大

人の話を聴くとき、私はこちらの「聴く」を使うのが正しい表現だと思います。選手には話をしている人の顔を、目を見て話を聴きなさいと伝えています。

そもそも、「聞く」という表現は意識をしないで耳に入ってくる音を受け入れるという場合に使います。一方、「聴く」という表現は積極的に意識をして、音に耳をかたむける場合に使います。選手の前で話をしていると、どちらかという下級生は「聞く」、上級生は「聴く」だと私は感じています。下級生は話を聞いていますが、聴いていないためミーティングが終わった後に周りの選手に確認することが多いです。

これは野球以外のときでもそうではないのでしょうか。学校の授業も聞くのではなく、聴かないといけないと思えます。だから私たちは日頃から人の顔・目を見て話を聴きましょうとアプローチをしています。アプローチはしていますが、口うるさくは言っていません。このようなことは自分で気がつかないと成長できないからです。保護者の方も私たちと一緒に、選手が気づくのを長い目で見守っていただければと思います。

「2016年のビッグプレー」

コーチ 岩井 健一

2015年は、小学部の練習を多く見る機会をいただき、練習試合も二試合見させてもらいました。中でも、印象深いビッグプレーは、初めての練習試合で6年生の選手が見せてくれたホームスチールでした。

その時、私は主審をしながら試合を見ていましたが、サードランナーの動きがどうもおかしい…。しっかりと野球を教え込むチームであれば、「ちょろちょろするな！」と怒られていたかもしれません。そんな中、相手チームのキャッチャーがピッチャーに返球をした瞬間、その選手は迷わずホームに走り出し、ヘッドスライディングでホームベースに飛び込んでいきました。判定はセーフ。私は主審をしていましたが、見事にタッチよりも先にホームベースに手が届いていました。

良し悪しは別にして、私はこのプレーを見た時に、「そうきたかー！！」という、なんとも言えない爽快感と感動がありました。大人に走塁を教え込まれていたり、アウトになったら怒られるような環境であれば、このようなプレーは出なかったかもしれません。

「こちらの予想、指示通りに動いたプレー」よりも、「こちらが予想も指示もしていないプレー」に出会えた方が、指導者としての喜びが大きい。そう感じたプレーでした。これからもそんなプレーに多く出会えることを想像するとワクワクしてきます。

大人が頭を悩ませて考えているうちに、若い才能が素晴らしいアイデアと技術で問題を簡単に解決してしまった。ということが、海外ではたくさん聞かれます。日本でも江戸から明治にかけてはそんな雰囲気があったのかもしれませんが。大きな時代の節目では、とにかく指導者が子どもの自由な発想を潰してしまわないことが大切なのかもしれないと感じています。彼らには、指導者を軽々と越えていってしまう可能性があります。指導者のちっぽけな思い込みで、彼らの才能を潰してしまわない。指導者も日々成長しながら、そんな自分を軽々と越えていく子どもを温かく後押ししていく度量が指導者には必要なのかもしれません。これからも、彼らが才能を思いっきり表現できる環境をつくっていきます。

11月末から滞在しているドミニカ共和国。日本から横浜DeNAベイスターズの筒香選手(堺ビッグボーイズ22期生)・乙坂選手・飛雄馬選手も約1か月間滞在し、ウィンターリーグ(ドミニカ共和国のプロ野球)参加や、LAドジャースの選手育成アカデミーでの練習などを行いました。

彼らのそばにいて、もちろん試合や練習も印象的だったのですが、滞在中に彼らが接する現地の子供たちの目の輝きが何とも忘れられません。ただそれは、日本のスター選手に会えたからということではなく(残念ながら日本の選手は現地で誰も知りません・・・)、子どもたち自身が未来に向かって進んでいくための目の輝きです。

国としては経済的に引き続き不安定で、日本のような保証が何もないドミニカ共和国。安定した職業などほとんどなく、子どもたち自身がどんな世の中でも生き抜いてく逞しさを養っていかねばなりません。

その中に野球というツールが存在するのではないかと思います。メジャーリーガーになり活躍することができれば、家族や親せきみんなを養っていくことができる。そのために小さい頃から野球をやる。それも一つでしょう。ただ、それよりもっと大切なものがドミニカの野球の中に存在しているのではないかと思います。

よく言われる通り、野球は失敗のスポーツです。どんなにいい打者でも10回中7回は失敗します。エース投手でも負けることもある、それでも常にチャレンジ精神を忘れず、失敗を恐れず挑戦し、自身が進化し続けることが大切なスポーツです。若い選手や子供たちならなおさら、失敗の多いスポーツでまだまだ経験の少ないうちは、失敗の連続であることがごくごく当たり前なのだと思います。

そんな若い選手や子供たちを支える指導者や保護者の視線・掛け声は常に暖かいものがあります。豪快な三振をしても『良いスイングだ！次はきっと打てるよ！』、打たれこんでも『今日はたまたま君の日じゃなかったんだ！次は君の力がきっと発揮できるよ！』、もちろん守備でファインプレーしたときは『ワオ！！なんてすごいプレーなんだ！もうメジャーリーガーそっくりだね！』と満面の笑顔で褒めることも決して忘れはしません。

日本の社会で良く言われる言葉(？)、『こいつは使えない。』『こいつは勝負弱い。』『だからこいつは・・・。』などというネガティブな言葉を聞くことはまずありません。

大好きな野球をして、それを支えてくれる指導者や保護者が失敗してもうまくいっても常にポジティブな声をかけてくれる、そんな環境の中で子供たちは『今はまだまだ体は小さいけど、うまくプレーができないけど、失敗を恐れずチャレンジしていつかメジャーリーガーになってやるんだ！』と目をキラキラ輝かせています。

もちろん、メジャーリーガーになるためには激しい競争があります。実際にはなれない子の方がはるかに多いのも事実です。でも、失敗を恐れない、チャレンジし続ける、これを野球を通じて繰り返すことが、将来大人になった時に、この不安定な社会でも明るく生きていくことにつながっているのではないかと思います。

日本社会も混とんとしています。今の子供たちが大人になった時はますます世の中が不安定になっている可能性も大いにあります。でも、子どもたち自身にどんな時代が来ても生き抜く力が備わっていれば、何も怖いことはありません。勝負事なので試合はもちろん勝たせてあげたい、でもそれ以上に日本の子供たちが人生において大切なものを学ぶ環境を作ることには貢献できればと思っています。

カリブの島より、皆さんと共に2016年を良い1年にできるようにと願っています。2015年は1年間ありがとうございました。来年もよろしくお願ひします。